

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>						<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	-	-	
1.3 吸音						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35	-	-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御						<b>3.2</b>	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		外壁その他 U=0.5W/m <sup>2</sup> K、窓システム SC:0.34 U=2.2W/m <sup>2</sup> K				4.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		加湿機能・除湿機能を有し、かつ40%~50%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量が確保されている。				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.4</b>	0.25	-	-	<b>3.4</b>
3.1 昼光利用						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光率						3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		ブラインド・庇(アルミルーバー)にて昼光制御している。				4.0	1.00	-	-	
3.3 照度		全般照明方式の場合で、照度が500lx以上1000lx未満				<b>4.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆製品をほぼ全面的に採用。				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量		中央管理方式でない場合にて、建築基準法及び建築物衛生を満たす換気量の1.4倍としている。				5.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は、汚染源の無い方位に設けられている。かつ、排気口と6m以上離れている。				4.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.6</b>	0.40	-	-	<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.50	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.50	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高さは2.9m以上。				5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース及び自動販売機を設置している。				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		建物機能を促進する、コンセプトに基づいた内装計画が照明計画と一体的にインテリアベースやカーサキムにより事前検証を実施している。				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>4.2</b>	0.30	-	-	<b>4.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた50%以上増の耐震性を有する				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		建物全体で免震装置を採用した免震構造建築物である。				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.2</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用。				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		空調設備の系統を区分し、災害時に配慮				4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水器具を採用。				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用電源設備を設置、受電設備の二重化、UPSを設置				5.0	0.20	-	-	

	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図り、受電設備も二重化を図り、精密機械は地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>4.2</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>5.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	
	1	階高のゆとり	基準階高6.60mを確保	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>5.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	
				倉庫の積載荷重は、15000N/m <sup>2</sup>				
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>4.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.0</b>
				外構緑化指数が20%以上50%未満の規模の外構緑化を行っている。				
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
	<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	<b>0.50</b>	-	-	
	<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	<b>0.50</b>	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				<b>5.0</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>5.0</b>
				BPI=0.77				
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	<b>0.10</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>				<b>5.0</b>	<b>0.50</b>	-	-	<b>5.0</b>
				[BEI][BEIm] = 0.00、LED照明設備を導入している。				
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	<b>1.00</b>	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.4</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>3.4</b>
	<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	
				自動水栓に加えて、節水型便器を採用				
	<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	<b>0.60</b>	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>3.7</b>	<b>0.60</b>	-	-	<b>3.7</b>
	<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
	<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
	<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
	<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20	-	-	
				共用部分にビニル床材、タイルカーペット、ボードを使用				
	<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10	-	-	
	<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			5.0	0.20	-	-	
				躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用し、OAF7ア-も使用している。				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.0</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>3.0</b>
	<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	
	<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	<b>0.70</b>	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>4.0</b>	<b>0.33</b>	-	-	<b>4.0</b>
	<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>5.0</b>	<b>0.25</b>	-	-	
				燃焼機器を使用しておらず、対象建築物の仮設閉空間から外部空間に関して大気汚染物質を全く発生しない。				
	<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>4.0</b>	<b>0.50</b>	-	-	
				地表面対策面積率が45%以上				
	<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	<b>0.25</b>	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	<b>3 交通負荷抑制</b>			5.0	0.25	-	-	
				駐輪場・駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設(トラックバス)を確保し、車両出入り口付近に(トレーラー)や大型車両の待機スペースも確保している。				
	<b>4 廃棄物処理負荷抑制</b>			1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>2.7</b>	<b>0.33</b>	-	-	<b>2.7</b>
	<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>1.6</b>	<b>0.40</b>	-	-	
	1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	<b>0.20</b>	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	目的に応じた適切な照度レベルが設定されている。スケジュールにより広告物照明の点灯時間を管理している。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	